

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学研究科
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 研究者および高度専門職業人の着実な養成を実現するために入試制度を見直し、学位取得プロセス、学位審査基準を明確化し、公表する。	→ 「定員充足率」 「博士前期課程エキスパートコース修了者の就職状況（就職決定率と就職決定先）」 「大学院学生対象の授業評価実施回数」 「大学院入試説明会の開催時期と開催回数」 「大学院広報掲載雑誌数・パンフレット作成の有無」	C
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

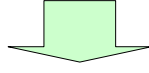
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目0.0.1	(理念・目的) 1 前期課程：ソーシャル・アプローチの理念に基づき、広く深い社会的視野と教養に根ざした法学政治学の研究を極めることを通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富む、高度の専門的能力を持つ有意な人材を育成することを目的とする。 2 後期課程：ソーシャル・アプローチの理念に基づき、自立して研究活動を行える高度な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を身につけ、またその研究能力を生かした高度に専門的な業務に従事することのできる能力を養うことを目的とする。 (現状説明) 前期課程は法律・政治の一専攻制を取っているが、2009年度の入試制度の大幅見直しによって、2010年度の定員充足率がやや改善されたとはいえ、まだ十分とはいえない（1学年の定員45名、入学者数：2008年度14名（31%）、2009年度13名（29%）、2010年度20名（44%））。
☆ 小項目0.0.2	(現状説明) 2009年度に、前期課程への受験者・入学者増のために、法学研究科独自のパンフレットの作成等を行い、学内外への広報に努めている。また、2009年度に、学位取得プロセスおよび学位審査基準を策定し、これらを2010年度より履修要項等において構成員に公表している。
☆ 小項目0.0.3	(現状説明) 大学院受験者数・入学者数、大学院生への授業評価や前期課程エキスパートコース院生の就職先等に、理念・目的の適切性検証のための資料を得ている程度に留まる。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目0.0.1	定員充足率の向上
小項目0.0.2	パンフレット作成等による大学院広報の充実
★ 小項目0.0.3	
その他	



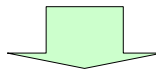
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目0.0.1	定員充足率の一層の改善のための大学院広報の一層の充実
★ 小項目0.0.2	大学ホームページの法学研究科サイトの見直しや、地方自治体関係者向けの広報や法曹関係団体の機関紙での大学院広報の拡大
小項目0.0.3	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	大学院の理念・目的の適切性の検証のための資料を一層、確保するためにアンケート等の調査を実施する。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	前期課程エキスパートコース学生の就職先と選択プログラムの相関関係の検証、学部学生への大学院進学に関するアンケート調査の実施等
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○研究科の理念を踏まえた入試制度の見直し、学位審査基準の公表などの努力が、成果となって表れることが期待されます。

【学内委員】

○小項目0.0.1の現状説明は「4 学生の受け入れ」での説明ではないでしょうか。

○問題点が適切に指摘されており、評価できますが、改善方策にあるアンケート調査などを通じて、具体的な成果目標を検討することが期待されます。

○点検・評価のサイクルが進行中と判断されます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 小項目0.0.1の現状説明を以下のように変更する。「2008年度に法学研究科の理念・目的の明確化を前期課程、後期課程別に上記のとおり行った。特に、前期課程の理念・目的では、研究者用(アカデミック・コース)と高度専門職業人用(エキスパート・コース)の2つのコースに対応できる内容にすることで適切性を確保している。また、関西学院大学法学部創設以来の教育理念である「ソーシャル・アプローチ」という表現を理念・目的に加えて個性化を図っている。」

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

0.0.0.S1	本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
0.0.0.S2	卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
0.0.0.S3	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
0.0.0.S4	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
0.0.0.S5	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
0.0.0.S6	本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数
0.0.0.S7	理念の周知について(1)ー理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
0.0.0.S8	理念の周知について(2)ー総合コース「『関学』学」の履修者数

<個別的な指標>
